



東洋遺稿

曾
651





故小野梓先生肖像

故小野梓先生遺墨

病毛は帰し後熟思ふよ畢竟斯く藩聽の東傳を受くるに必竟帯
 刀の身不て士かの列不存れに然るなり（帯刀を棄てて袴を穿たり）士林と稱し平人と為し
 身と自由ならずと今の上策なりと或る日其由と萱芸家兄等不話し
 平人の頭と出すことと為たり然るに伊垣公之を聞き屈けるまき考め據存
 く他家へ養子不往躰不て平人と為りたりまこの平人不考る事ヲ執きて人
 と大抵その短氣なるを戒め今時ハ平人でせよ士林不穿たり思ひ脚ざし
 の一本も差し養思ふ世の中なる不態 帯刀と抜き捨て平人と考るとハ
 滅志得道しなむ由とさすやまなれ余に於て見る所ありしなり我が
 心不まき世に笑わると堅く乞ひ遊ぶ平人と云ふべき

故小野梓先生ノ遺稿中自家ノ經歷ヲ手記セル一冊子アリ
 右ニ掲ゲシハ其一節ニシテ手跡ノ儘ヲ寫眞石版ニ附セシ
 モノナリ

規約

第一條 我党ハ平和改進黨ト稱シ保守激進ノ二党ニ分別ス

第二條 我党ハ東京ニ中央本局ヲ置キ全国党人ノ事務ヲ總持セシメ各地ニ地方支局ヲ置キ其地党人ノ事務ヲ幹理セシム

第三條 中央本局ノ事務ヲ分課シテ法制理財外交内務兵事庶務ノ六部ト爲シ地方支局ノ事務ハ便宜之ヲ分課ス

第四條 我党ハ首領一人ヲ置キ先ツ其候補ヲ

定ノ党人多數ノ同意ニ取テ之ヲ推撰ス但任
 期ナシ其人主義ヲ変セサレハ終身之ヲ推ス
 第五條 中央本局ニ常置委員十二人ヲ置キ党
 人一般ノ投票ヲ以テ毎年五月其一半ヲ改撰
 ス地方支局ニ委員二人ヲ置キ其地党人ノ投
 票ヲ以テ毎年五月其一人ヲ改撰ス但地方ノ
 情况ニ由リ其委員ヲ増置スルヲ得
 第六條 本支両局共ニ書記司計各一人ヲ置
 キ本局ハ首領之ヲ撰任シ支局ハ委員之ヲ撰
 任ス

第七條 首領ハ全國ノ党人ヲ提理シ党中一切
 ノ事務ヲ總柄ス但党事ノ重キ者ハ中央常置
 委員ノ會議ニ付シ若クハ各地代辦ノ公議ヲ
 問ヒ之ヲ施行ス
 第八條 中央常置委員ハ中央本局ノ事務ニ參
 シ其部分ヲ分擔ス地方委員ハ地方本局ノ事
 務ヲ辦理シ中央支局ノ通信ヲ司掌ス
 第九條 書記司計ハ本局若クハ支局ノ庶務ヲ
 分掌ス
 第十條 毎年一回便宜ノ時期場所ニ於テ党人

代辦ヲ會ニ覽事ノ重キモノヲ議セシム但
首領之ヲ必須ナリト認ムル時ハ臨時ニ之ヲ
開クヲ得

第十一條ノ凡リ覽人タルヲ求ムル者ハ自署ノ

書簡ヲ中央本局ニ送致シ其登籍ヲ請フヘシ

其之ヲ許スル者ハ猶ホ自署ノ書籍ヲ送致ス

但支局ナル地方ニ在テハ求許共之ヲ經由ス

ヘシ

第十二條 此内規ヲ實施スル爲メ必須ナル諸

種ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム